

JAAF
SHIGA

滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会
〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1 室
TEL/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

一般財団法人滋賀陸上競技協会
専務理事 坂 一郎

2021年を迎へ会員の皆様には、お健やかに、また新たな目標と希望を抱きお過ごしのことと思います。昨年は新型コロナウイルス感染防止策の先陣を切つてのびわ湖毎日マラソン大会に始まり、全てと言っていいぐらいに大会やイベントができない一年であったと思います。2024年の滋賀国体は2025年に延期され、76回の歴史を誇るびわ湖毎日マラソン大会は次回78回大会のみ大阪へ行くことが決まりました。びわ湖毎日マラソンのレガシーを引き継ぎ、新しい形でのマラソン大会を早急に立ち上げていくことが、協会に課せられた宿題であります。会員の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、今年、役員改選年度に当たります。日本陸上競技連盟では、スポーツ団体ガバナンスコードに基づく役員構築を求めつつあります。協会としては、滋賀国民スポーツ大会に向け、役員若返りを計ると共に滋賀国民スポーツ大会だけでなく、続く高校インターハイ、全中陸上競技まで活動し、協会の柱になっていただける方々をお願いしていきたく考えています。特に強化部門では、滋賀国民スポーツ大会まで4年、滋賀インターハイまで5年、全中まで6年、実力や指導力のあるコーチを求めていきます。

ところで、日本陸上競技連盟では、令和3年度から中学・高校生500円、大学・一般1,000円の登録料を徴収します。本協会への登録料は中学・高校生1,000円、一般個人登録は4,500円、団体(クラブ)登録者は3,500円と決定いたしました。協会の財源の確保には苦慮しているところですが、収入が減収になれば、事業も縮小しなければならぬのは当然の理です。事業の整理整頓を実施する予定です。

新型コロナウイルスは、猛威を振っています。パンデミックな状況です。いつ感染するかわからない環境です。気持ちを引き締めていきましょう。本年もよろしくをお願いいたします。

【 総務委員会 】

新年度早々から新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大会開催や各種会議も開催できず、理事会や評議員会を招集し、事業執行・方針決定について承認を得るという、通常の手順を踏むことができない状態になりました。

4月18日、5月17日、6月14日と臨時の主要役員会を開催し当面の方針決定を行ったところです。

ようやく、7月に入って7月25日に総務委員会・統括委員会幹事会、8月15日に理事会、8月29日に評議員会を開催することができました。これにより、令和元年度の決算承認と令和2年度の事業計画、予算が承認されました。また、協会としてもこのような危機事案に素早く、的確に対応できるよう、理事会も評議員会も書面決議ができるように定款の改正を提案し、承認を得たところです。

また、12月26日には、理事会、評議員会を開催し、前日の「びわ湖毎日マラソンの大阪マラソンへの統合」の発表などを含め、登録料や参加料の見直しや今後の対応について協議を行いました。

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止対策などで世の中が激動する中、県陸協もしっかりとした大会運営に加え、危機管理、増加する経費など多くの課題に取り組んでいかなければなりません。会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

【 強化委員会 】

<2024 年滋賀国民スポーツ大会が 2025 年開催に決定>

コロナ禍で全国中学生陸上や全国高校総体が中止となるなか、第 75 回鹿児島国体も中止となり、2024 年開催予定であった滋賀国民スポーツ大会も 2025 年に変更となった。言うまでもないが、今年度の勝負を見据え競技力の向上に励んだ選手にとっては、つらく厳しい現実となった。しかし、10 月にはそれぞれ代替大会である全国大会が開催され、多くの選手が入賞するなど、滋賀県全体の競技力の向上を実感することが出来た。今後はコロナの終息を願いながら、最大限の感染対策を講じ、更なる強化を図っていかねばならないと感じている。

11 月 23 日には選抜育成練習会を開催し、中学生から一般選手までの強化指定選手約 150 名が集まり、山中日菜美選手(デンソー)をはじめ日本のトップ選手も参加した。3 月まで複数回実施予定だが、大きな刺激の中で自分にチャレンジし、次年度以降の全国大会をはじめ、三重国体での結果を求めてもらいたいと思う。

さて、2025 年開催となったことでターゲットエイジが変わり、現中学 1 年生が高校 3 年生で迎えることになる。今年度、小学生陸上関係のほとんどが中止となり、シガリクやレイキッズも中止となったが、滋賀国民スポーツ大会において結果を目指した強化策が、それ以降のレガシーとなり、滋賀陸上競技協会全体の発展につなげていきたいと考える。

(写真は 11/23 選抜育成統一事業の様子…希望が丘)



(写真は 12/12 選抜育成：跳躍ブロックの様子…びわこ成蹊スポーツ大学)



<京都女子駅伝・中長距離競技会：たけびしスタジアム京都(西京極)>

第39回全国女子駅伝の代替大会として、近畿地区の中学・高校・一般選手を対象(各府県陸協推薦選手)に競技会が開催されました。滋賀県では都道府県駅伝の最終記録会(11/28)をもとに、女子3000m(中学・高校)それぞれ5名を選考しました。禊をつなぐことはありませんが、ハイレベルな近畿の競技大会で、自分の力を発揮してくれました。

【 普及委員会 】

今年度は新型コロナウイルスの影響により、全国小学生陸上競技交流大会県予選や秋季記録会など、陸協主催の大会は全て中止となりました。

小学生の大会は、春夏開催予定だった大会を秋に延期することも、感染症予防の点から行いませんでした。特に今年の小学6年生に関しては、目標としていた大会がなくなってしまったため胸が痛いですが、各市やクラブで大会に代わる記録会やイベント等を開催し、今できる範囲内の工夫をしていただきましたこと大変感謝申し上げます。

来年度については、どのような形で大会を開催できるのか、また普及できるのか等決まっていますが、安心・安全に子どもたちが楽しく陸上競技に取り組めるよう尽力してまいります。

【 高体連 】

2020年10月23日～25日にエディオンスタジアム広島において、全国高等学校陸上競技大会2020が開催されました。上位入賞者は以下の通りです。

<男子>

やり投 第2位 山田隼人(3)(大津商業)
5000m 第3位 梶谷優斗(3)(滋賀学園)
八種競技 第6位 福田海斗(3)(彦根翔西館)

<女子>

200m 第4位 治武杏祈(2)(近江)
5000m 第3位 石田さつき(1)(大津商業)
(滋賀県高校新記録・全国高1歴代1位)
三段跳 第7位 芝千紗希(2)(近江)



また、今年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国高校総体をはじめとする多くの大会の中止が余儀なくされました。その中で、全国の高校生に活躍の場を設けるために、新たな競技会の形として『2020全国高等学校リモート陸上競技選手権大会』が開催されました。これは、各都道府県が指定する競技会への参加者全員が本大会に出場したことになり、記録を得点化してランキングを競うという大会です。滋賀県ではユース選手権(混成種目は滋賀県選手権)が指定された競技会となっております。8位入賞者は以下の通りです。

<男子>

200m 第7位 横山大空(2)(比叡山)
110mH 第6位 太田彪真(3)(石部)
400mH 第8位 福田海斗(3)(彦根翔西館)
三段跳 第3位 西藤我空(3)(石部)
やり投 第5位 山田隼人(3)(大津商業)
八種競技 第2位 福田海斗(3)(彦根翔西館)

<女子>

100m 第5位 治武杏祈(2)(近江)
200m 第4位 治武杏祈(2)(近江)
200m 第8位 塩尻真結(3)(草津東)
三段跳 第4位 芝千紗希(2)(近江)
ハンマー投 第7位 杉野樹里海(3)(滋賀学園)



11月8日に行われた県高校駅伝において、男子の部では滋賀学園高校が3年連続13回目の優勝、女子の部では8年連続10回目の優勝を果たし、12月20日に京都で行われる全国高校駅伝の出場権を獲得しました。全国高校駅伝の結果は、**滋賀学園高校が12位**、比叡山高校が37位という結果でした。**滋賀学園高校は昨年の県最高記録を1分以上更新して2時間4分35秒という素晴らしい記録を残しました。**

まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、シーズン後半は様々な感染症対策を施しながら、無事に開催された大会もありました。高体連を支えて下さる皆様にも、応援の自粛等様々な場面においてご協力いただき、ありがとうございました。今後の見通しが立たない状況ではありますが、滋賀県勢が大きく飛躍できるように新たな目標を掲げ、一致団結して精進していきたいと思っております。今後とも、高体連の活動への応援、サポートよろしくお願いたします。



【 中体連 】

全国中学生陸上競技大会2020の結果

今年度は、夏に予定されていた「全日本中学校陸上競技選手権大会」は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。しかし、10月に予定されていた「U16陸上競技大会」が中学生のチャンピオンを決める「全国中学生陸上競技大会2020」へと代わり、横浜日産スタジアムで開催されました。

滋賀県からは、個人で、男子100mに中川敬貴選手（中主中・3年）、細見昂輝選手（県立守山中・3年）、男子200mに森泰成選手（朝桜中・3年）女子1500mに森谷心美選手（立命館守山中・2年）、女子四種競技に石川優空選手（聖徳中・3年）、4×100mは男子は中主中、女子は聖徳中が出場しました。

男子では、100mの出場した中川敬貴選手（中主中・3年）が6位に入賞する素晴らしい結果を残しました。女子では、1500mに出場した森谷心美選手（立命館守山中・2年）が2年生ながらも決勝に進出する頑張りを見せてくれました。

今年度は、夏の全国大会、冬の全中駅伝が中止になり、目標を失い悲しんだ3年生も多かったですが、なんとか全国大会が10月に開催されてよかったです。

来年度は茨城全中、そして、地元開催5年目を迎える全中駅伝。滋賀県から全国の舞台で活躍できる選手が1人でも多く生まれるようTEAM SHIGA 一丸となって強化をおこなってまいります。



【 マスターズ 】

滋賀マスターズスペシャルデー

今年度は、新型コロナウイルスの影響から、例年開催している各種大会が軒並み中止となりました。そんな中、感染症に留意しながら滋賀マスターズの仲間が交流できる場として、10月18日（日）に「滋賀マスターズスペシャルデー」とし、体力測定・合同練習会・ミニ記録会を実施しました。

当日は天候に恵まれ、県内からマスターズ会員が甲賀市陸上競技場に集合。検温をし、体調管理チェックシートを提出した後、計画に従い進められました。披露する機会がなかった栄章授賞式もこの日に実施できました。

体力測定

午後1時から開催された「体力測定」には過去最高50名近くの参加がありました。

《平衡感覚》閉眼片足立ち

《瞬発力》垂直跳

《敏捷性》反復横跳び

《筋力》握力・背筋力・上体起こし腹筋力

《柔軟性》長座体前屈

個々に体力年齢や体力向上のためのアドバイスが書かれた測定結果が手渡され、今後の健康維持・体力強化に向けての参考となりました。

指導者から「マスターズの人たちの体力は優れている。競技場に足を運び運動するということは、勝ち負けということよりも、陸上を通して運動能力向上・脳の活性化という素晴らしい効果をもたらしている。」とのコメントをいただきました。



合同練習会

ミニハードルを使った体の動きづくり運動を行った後、短距離・投てき・跳躍・長距離それぞれの専門種目に分かれて練習に取り組みました。

ミニ記録会

午後3時30分からは「ミニ記録会」を実施。

100m、1500m、砲丸投げ、走幅跳の各種目で熱戦が繰り広げられ、日ごろの練習成果を発揮しあいました。

参加者は100m26名、1500m12名、走幅跳4名、砲丸投げ2名で、初めての試みでしたが、競技役員協力の元、無事に競技が終了しました。



[編集後記]

2020年はコロナ禍で激変の年でした。競技会も減り、国民スポーツ大会の延期、毎日マラソンの開催がびわ湖では最後となり、滋賀陸協の状況も大きく変わりました。広報の発行も今年度は1回となりました。次年度は新理事によって運営され、新型コロナウイルスの拡大が収束し活発な協会運営となりますよう祈っております。